

―名古屋大学土木系教室五十周年記念行事趣意書

拝啓 時下益々ご清栄の段、お慶び申し上げます。

さて、名古屋大学土木系教室は本年四月をもちまして創立五十周年を迎えることが出来ました。名古屋大学工学部土木工学科は、昭和三十六年（一九六一年）四月に創設されました。創設の目的は、昭和三十四年九月の未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風の復旧復興と安全な国土の構築に貢献するとともに、中部経済圏を確立して国土総合開発をなし産業の振興を企図する関係各位の強い要望に応えるためでした。創設時の講座編成に際しては、橋梁、鉄道、河川、港湾、道路等個々の技術の修得のみではなく、土木事業の計画、設計、施工について広い視野からこれを把握し判断する能力を授けるために基礎部門として構造力学、土質力学、水理学の三講座、応用部門として土木計画学、土木設計学、土木施工学の三講座を設け、当時としては斬新な発想が導入されました。

その後、昭和五十四年に工学研究科に地盤工学専攻の設置（平成四年より地圏環境工学専攻へ改組拡充）、平成八年に設置された理工科学総合研究センターと平成九年に難処理人工物研究センターへの展開（これらは平成十八年よりエコトピア科学研究所へ改組拡充）、平成十三年に創設された文理融合型の大学院環境学研究科に都市環境学専攻空間環境学コースを展開するなど、新しい教育形態や構成による幅広い土木分野を支える教育と研究を行ってきています。特に教育面においては、昭和六十二年に英語で教育・研究指導する土木工学専攻留学生特別プログラム、平成二十年に名古屋大学国際環境人材育成プログラムを発足させ、国際化を積極的に進めてきています。また、今年度からは「インフラ技術開発・移転」寄付講座（MEXCO 中日本）が設置されました。

土木を取り巻く経済社会環境は近年著しく変化し、大学の果たすべき役割も大きく変わっています。日本で土木工学を修めた者が活躍する場も、日本国内にとどまらず世界へと広がっています。また、全ての国で開発と環境の均衡を保った社会の質向上が求められています。鉄道、橋梁、軟弱地盤対応技術をはじめとして、日本の培ってきた土木技術はそれぞれが一つの総合文化であり、われわれはその価値を世界と共有する次世代のグローバルな視野に立つ土木工学の構築へ貢献したいと考えてきました。このような折、去る三月十一日に東日本を襲った巨大地震により広域に渡る甚大な被害が生じました。自然の力へインフラ建設だけで対抗するのではなく、適切な土地利用のあり方と、交通・情報・エネルギーロジクスなど非常時にも最低限の機能を維持できるインフラシステムの必要性が改めて認識されました。そして、東海・東南海・南海地震をはじめ、重大な災害が今後数十年のうちに発生することが予想される全国各地で、それらに備える準備をしなければなりません。土木工学の果たすべき役割は益々重要になります。

伊勢湾台風を契機に創設された土木系教室五十年の歩みを辿りつつ、現在を起点にさらに進化した土木工学の次の五十年を展望すべく、左記により土木系教室五十周年記念行事を開催することとしたいと存じます。

ご多用中のところ、誠に恐縮に存じますが、何卒ご臨席を賜りますようご案内申し上げます。

敬具

平成二十三年八月吉日

名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻長 館石 和雄
名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻空間環境学コース長 林 良嗣
名古屋大学土木系教室同窓会「鏡ヶ池会」会長 官池 克人

記

名古屋大学土木系教室五十周年記念行事

一. 名古屋大学土木系教室五十周年記念式典

日時 平成二十三年十月一日(土) 十四時から十五時(受付十三時から)
場所 名古屋大学豊田講堂

二. 記念シンポジウム

テーマ 「For the Next 50 years」

日時 平成二十三年十月一日(土) 十五時十五分から十七時十五分
場所 名古屋大学豊田講堂

記念講演 「東日本大震災…被害実態と緊急対応・復旧・復興」(仮題)

徳山 日出男 氏(国土交通省東北地方整備局 局長)

パネルディスカッション 「総合技術文化としての土木工学の構築と役割」(仮題)

コーディネーター

林 良嗣 氏(名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

パネラー(予定)

山本 卓朗 氏(土木学会 会長)

徳山 日出男 氏(国土交通省東北地方整備局 局長)

野津 光夫 氏(株)不動テトラ建設本部国際部 部長)

西村 政洋 氏(アジア開発銀行東南アジア局 交通専門家)

水谷 法美 氏(名古屋大学大学院工学研究科 教授)

三. 記念交流会

日時 平成二十三年十月一日(土) 十七時三十分から十九時
場所 名古屋大学豊田講堂内増設ホワイエ

四. キャンパスツアー

日時 平成二十三年十月一日(土) 十一時から十四時
集合場所 工学部8号館2階会議室

(参加希望の方は十一時から十二時半までに集合場所で受付をしてください。)

名大博物館、ノーベル賞展示室、野依記念館、赤碓記念館、図書館、研究室紹介パネル、実験室、世界初の大学内橋梁などを見学していただきます。また、学食で食事をしていただく企画（受付で食事券を無料配布）も実施予定です。なお、受付をされなくても、十三時四十五分までは各場所の見学を各自でして頂くことが可能です。

五. 記念交流会参加費および五十周年記念誌購入

記念交流会参加費 一万円（一般、五十周年記念誌一冊を含む）

三千円（同伴者）

三千円（学生）

（一般の方の記念交流会参加費には五十周年記念誌一冊（二千円）の代金が含まれています。同伴者および学生は三千円とさせていただきますが、書籍代は含まれておりません。）

五十周年記念誌購入 一冊 二千円

（何冊でも購入可能です）

払込期限 平成二十三年九月九日

（会場の都合がございますので、期限を厳守下さいますようお願い申し上げます。）

払込方法 同封の郵便振替用紙により払い込み下さい。

（郵便局の受領書を持って本会の領収書に代えさせていただきます。特に領収書をご用意の方は郵便振替用紙にその旨をご記入下さい。）

払込先名称 名古屋大学土木系教室五十周年記念事業会

（郵便振替） 00800-7-108727

お問い合わせ先

〒四六四―八六〇三 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻

名古屋大学土木系教室五十周年記念事業会幹事長 中村 光

（電話） 〇五二―七八九―五六九〇）

（E-mail hikaru@.nagoya-u.jp）

※今後、五十周年行事のご案内は、社会基盤工学専攻のホームページに掲載していきますので、
ご確認ください。

<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>